

読者からのご指摘について

本書の読者から、本書第5章「東日本大震災（その二）―津波で根こそぎ引き抜かれたビル―」（94～97ページ）で、PC杭と書きながら鋼棒の引張強度を鉄筋のような一般構造用鋼材の400N/mm<sup>2</sup>を用いて記載していたことへのご指摘がありました。

この杭が遠心RC杭であれば本書記載のシナリオが考えられますが、津波で流されたビルが、PC杭のJIS規格が制定された1968年（昭和43年）以降の竣工であれば、JISで示される1300N/mm<sup>2</sup>の引張強度のPC鋼棒、あるいはそれ以上の強度を持つPC鋼材を用いたPC杭の可能性が高いと思われます。

いただきましたご指摘を踏まえ、引き抜けの過程での曲げなどによる破断の影響も併せてシナリオの検証を進め、何らかの展開があれば改めて読者の皆様にご報告の機会を得たいと考えています。ご丁寧に本書をお読みいただき懇切なるご指摘・アドバイスをいただきました読者にこの場を借りて心より御礼申し上げます。

地盤は悪夢を知っていた ―地盤に残る地震痕跡―  
編集委員会